



徳島市民病院だより



徳島市民病院の理念

「思いやり・信頼・安心」

〒770-0812 徳島市北常三島町 2 丁目 34 番地 徳島市民病院
Tel(088)622-5121(代表)

19

号

令和元年7月



令和迎え

地域連携軸に飛躍

第31回徳島市民病院地域医療連携会が7月18日、阿波観光ホテルで開催されました。連携医の先生方58人と当院医師、看護師ら78人が参加。最新医療の取り組みを紹介する講演、懇親会がありました。交流を深めました。



三宅院長

開会にあたり三宅秀則院長は、「連携医の先生、地域の住民から頼りにされ、この地にあつてほしいと思ってもらえるような病院を目指していきたい」とし、「本年度は経験豊富な10人の医師を迎え、同時に11名の初期研修医が勤務します。未来の医療を担う若い研修医の先生を育てていくことも当院の大切な使命。また、現在の医療は、連携なくしては成り立たないと考えており、徳島市医師会と当院との連携セミナーを開始したところです。逆紹介率アップ、紹介患者は断らないという取り組みを進めていきたい」とあいさつしました。

講演では、4月に着任した福森知治泌尿器科総括部長が「前立腺がん治療の現状」と題して、小線源療法、ホルモン抵抗性薬物療法など最新の治療動向を紹介。岸和弘内科診療部長は「当院での胆膵内視鏡の現況」について、EST、EPLBD(胆管

新任医師のご紹介

整形外科
主任医長



近藤 研司

外科
主任医長



池内 真由美

外科
主任医長



金村 普史

内科
主任医長



松村 圭一郎

泌尿器科
総括部長



福森 知治

整形外科
医員



善成 晴彦

内科
医員



松本 れいか

内科
医長



岩佐 昌美

耳鼻咽喉科
医長



高岡 奨

小児科
主任医長



鈴江 真史

がんセンター副センター長

地域周産期母子医療センター副センター長

結石除去)やEUS-FNA(超音波内視鏡下生検)の症例、有効性など説明しました。懇親会では、曾根三郎病院事業管理者が

徳島大学、市医師会との連携を重視した取り組みについて、宇都宮正登徳島市医師会長が市民病院と開業医との顔の見える関係づくりの大切さについて話しました。臨床研修医と各診療科、新任医師の紹介もあり、参加者は和やかに交流しました。

「最適医療、患者さんと共に選択」

前立腺がん

福森 知治 泌尿器科総括部長



ふくもり ともはる氏 平成3年徳島大学医学部卒。小松島赤十字病院医師、徳大医学部助手、米国カルマノスがんセンター研究員などを経て、15年に徳大病院講師。今年4月に徳島市民病院泌尿器科総括部長・がんセンター副センター長及び徳大泌尿器科臨床教授就任。専門は泌尿器科がん、腫瘍分子生物学、前立腺がん小線源療法、ロボット支援手術、泌尿器腹腔鏡手術。日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本泌尿器内視鏡学会評議員ほか。

前立腺がんのかかわり

前立腺がんは米国では男性で最も罹患率の高いがんで、7人に一人が罹患すると言われています。日本でも2016年には男性のがん罹患率一位となり、年間に約10万人が罹患したとされています。徳島大学病院在籍中はこの前立腺がんを中心に、主に泌尿器科がんの研究、診断、治療に携わってきました。

前立腺がんの研究、治療をメインワークにしようと考え始めたのは、2001年にカルマノスがんセンターに留学して前立腺がんのゲレクチン（がんの進展に関与）の研究を始めてからであり、2004年に前立腺がんの小線源療法（立ち上げを任せ、2012年からダヴィンチによるロボット支援手術導入に直接関与したことでの考えは確固たるものになりました。幸い現在までに多くの泌尿器科がん治療（特に前立腺がんに対するロボット支援手術120例以上、小線源治療930例以上）に関与させていただきました。これら多くの経験をもとに、徳島市民

前立腺がん治療の現状

前立腺がんの治療はここ最近の15年で大きく進歩しました。2003年に国内で小線源療法が認可され、外照射装置も強度変調放射線療法（IMRT）が導入されるようになり、前立腺により高い線量の照射が可能になりました。2012年からダヴィンチによるロボット支援手術が日本で認可され、より緻密で安全な手術が可能となりました。

泌尿器科がんトータルケア

徳島市民病院は徳島県の地域がん診療連携拠点病院の1つとして院内に内科、外科、緩和ケア、口腔ケアを中心とした腫瘍外来があり、その他の科も一般外来で多くのがん患者の診療が行われています。また緩和ケア病棟もあり、早期のがんから進行性のがんまで幅広い診療が可能です。今後、泌尿器科がんにおいても早期がんの治療から終末期までのすべての段階におけるきめ細かい治療を進めたいと思います。

白血病

要です。骨髄検査は皮膚消毒、局所麻酔の後に腸骨（骨盤）に針を刺し、骨の中にある骨髄液を注射器で吸引して採取します。細胞形態だけでなく細胞表面抗原や染色体、遺伝子検査も行い、診断します。

他のがんと同様に、白血病の原因と発生機序ははっきりと分かっている訳ではありません。しかし一部の白血病では原因遺伝子やウイルスが解明されています。急性前骨髄性白血病や慢性骨髄性白血

病では原因遺伝子由来蛋白をターゲットとした治療薬により、治療成績が劇的に改善しました。近年、急性骨髄性白血病においても遺伝子変異をターゲットとした薬が開発されています。

当院は日本血液学会認定研修施設であり、4名で血液専門診療室を行っています。入院無菌治療室を合計9床運用しており、空気清浄度の高い環境での治療を提供しています。白血病が疑われる患者様がおられる際には、当院への受診をお願いいたします。

（内科診療部長 橋本年弘）

がん豆知識



白血病は血液のがんです。文字通り、急性経過の急性白血病と、慢性経過の慢性白血病に分けられます。さらに、がん化している細胞系列により骨髄性とリンパ性に分けられます。急性白血病では、白血病細胞が骨髄を占拠して正常造血機能を抑えるために、赤血球、白血球、血小板ができません。その結果、赤血球減少による息切れ、動悸、倦怠感などの貧血症状や、好中球減少による発熱や、血小板減少による出血症状がみられます。

白血病の診断には骨髄検査が必

令和一番乗りかな



「令和」になってすぐの5月1日午前1時55分、当院産婦人科で元気な男の子が生まれました。お母さんは徳島市の五十嵐朱夏（あやか）さん。「2人目ですが、やっぱり痛かったですよ。でも無事に生まれてうれしい」と、にっこり。翌日に三宅院長、橋本看護部長が部屋を訪ね、赤ちゃんの写真と記念品を贈ってお祝いしました。名前は「結翔（ゆいと）」君。健やかに、令和の時代を飛ばたいください。



30週出産受け入れ



小児科主任医長
鈴木 真史

の極低出生体重、正期産でもしんどく産まれた、感染症を含めなんらかの合併症をもって産まれた、呼吸がうまくできない、などの赤ちゃんが入院します。看護師、助産師、医師を含めたスタッフはご家族の不安を取り除き、一緒に家庭に戻ってからも健やかな成長が得られるようにお手伝いします。

1500g未満の赤ちゃんに対して接することができるようになりました。具体的には

助産師外来始まる



師長
長船 晶子

メンタルヘルスでは質問票の点数が高い場合、担当医師や外来助産師と情報を共有し、次につなげます。経産婦さんからは「以前はなかったですね」と好評です。担当する病棟助産師は、これまで培ってきたスキルを發揮し、妊産婦さんが安心してお産に臨めるように妊産婦保健指導を行っています。妊産婦さんに励んでいます。

中での生活で困っていることや気になることを相談できます。検査の結果などにより生活指導や食事指導も行います。

6月17日より助産師外来がスタートしました。助産師外来では、助産師が妊婦さんを対象に、妊婦健康診査を行います。主に、妊婦さんの心身の健康のために面談と保健指導を行っています。一日最大5人までの完全予約制です。妊婦健診に来院された時に次回の助産師外来の予約をとります。来院された妊婦さんは尿検査・血圧・体重測定と同時に現在の気持ちを問う質問票を記入します。妊娠

リレー版 研修医日記

臨床研修医1年目 仲須 千春

研修医1年目の仲須千春です。生まれは大阪府枚方市で、マレーシア（幼稚園）、イギリス（小3～小6）、チェコ（中1、2）と住んでいました。イギリスに住んでいた頃はちょうどハリーポッターの新刊が発売されていた頃で友達とコスプレして新作の映画を見に行ったりもしていました。イギリスに住んでいたと話すと皆さまから「イギリスって料理まずいでしょ？」と聞かれることが多いですが、実際はそこまで美味しくないと



ことはありません！日本に比べたら彩りやバリエーションが少なかったり、はずれの率が高かったりありますが、中にはちゃんと美味しいものもあります。ただ、付け合わせはポテトがメインなのでずっと食べ続けるにはしんどいですが（フィッシュアンドチップス、シェパーズバ

イ、ヨークシャーピングなど）。他はインド人、中国人の移民がすごく多いのでインド料理、中国料理のクオリティーは高いです。

臨床研修についてですが、最初の2カ月を外科、続いて産婦人科、呼吸器内科でお世話になりました。同じ手術でも、科が違えば縫い方、術後の管理、術後経過で様々な違いがあるなど実感しました。どちらの科でも手技をさせてもらえることが多く、なかなか上手くできないこともあります。勉強になりました。

研修については短くなりましたが、通訳が必要な外人の患者さんがいればいつでもお役に立ちたいと思いますのでお呼びください。（写真＝柿内聡司・内科主任医長④から指導を受ける仲須医師）



第10回市民病院まつりを7月20日に開催しました。これまでで最多の1100人が来院。筋肉量や骨密度などの測定、健康相談コーナーや、子どもお薬教室、内視鏡体験コーナーなどは、順番待ちの列ができる盛況ぶり。4グループの演奏もあり、初参加の徳島アウトリーチコンサートはマリンバなどで楽しい楽曲を披露しました。



トピックス



緩和ケア病棟 七夕まつり

7月3日、緩和ケア病棟で七夕まつりのイベントを行いました。師長や日勤スタッフ、看護学生が七夕の歌に合わせて病室を訪問しました。患者さんやご家族に願い事を書いた短冊をササに飾ってもらい、みんなで一緒に写真を撮りました。スタッフがカメラを向けると思わず笑顔になる患者さん。ピースをしたり、奥さんと肩を組んだりする光景が見られ、心安らく穏やかな時間を共有することができました。写真の織姫、彦星は当院バルーンアートクラブのスタッフがこの日のために制作しました。

緩和ケア病棟では、3月にひなまつり、7月七夕まつりを催し、これからも季節の移り変わりを楽しめるようなイベントを計画していきます。

文理小で 救急出前授業

文理小学校で6月17日、市民病院と徳島市消防局による救急出前授業があり、5年生55人と父兄が心肺蘇生について学習しました。

当院の森田（DMAT隊員）、猪子、谷川看護師の3人と、市消防局救命講習担当4人が講師を務め、児童たちはシート型模型を使って胸骨圧迫とAED操作に挑戦しました。

救急アニメを見ながら、猪子看護師が「倒れた人を見つけたら、まず自分の安全を確認してから近づく」「119番、AEDをお願いします」と大声で応援を求めると解説しました。講師が突然倒れるというハプニング演出では、児童が駆け寄り、自分たちで胸骨圧迫、AED操作をする、という場面もあり、児童たちは一生懸命に取り組んでいました。



GW臨時開院しました

10連休でスタートした令和。当院は4月30日と5月2日に開院、通常診療を行いました。多くの病院が休診となるなか、「医療難民」がでる状況を回避するため、昨年からの病院として準備を進めてきました。外来は30日が374人、2日が403人の患者さんがあり、予約を除く当日患者さんは2日間合わせて334人でした。地域の診療ニーズにお応えできたと考えております。

医師による病状説明 平日時間内を基本に

厚生労働省よりすべての医療機関に対し「医師の労働時間短縮に向けた緊急的な取組」の実施が求められています。当院におきましても、医師の時間外勤務の縮減を図るため、患者さんやご家族への病状説明などについては原則下記のとおりとさせていただきます。

■説明対応時間

平日の時間内

【月曜日～金曜日 8時30分～17時】

※救急や緊急の場合は、この限りではありません

■運用開始 令和元年8月1日

ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

徳島市民病院長